

令和3年1月5日

飯能市長 大久保 勝 様

総務部長 田中 隆宏
市民生活部長 大野 充

令和2年第5回12月定例会の一般質問における答弁内容の確認について
(報告)

命により、コクランの移植作業に立ち会った職員への聞き取りを行い、「阿須山中
土地有効活用事業におけるコクランを中心とした植物貴重種の移植について(報告)」
(以下「報告書」という。)の内容と産業環境部長の答弁を確認した結果、下記のとおり
確認できましたので報告いたします。

記

令和2年11月20日に実施したコクランの移植作業に立ち会った職員5名への
聞き取りの結果、報告書の記載内容のとおりであることを確認しました。

また、産業環境部長の答弁については、この報告書の記載内容に基づいたものであ
り、事実誤認や虚偽がないことを確認しました。

【確認事項】

1 報告書に記載された内容について

コ克蘭採取作業中に『考える会メンバーがコ克蘭を踏みつけていたことについて』のやりとり』として、以下の記載があることを確認しました。

- ・ コ克蘭生息しているエリアに目印を付け、作業員以外は入らないよう、指導をしているにも関わらず、考える会の方が2～3名エリア内に入って作業を見学
- ・ その際に考える会メンバーがコ克蘭が生息している箇所に足を置いていたため、作業員が注意
- ・ 「ちゃんと踏んでいない。」と言うが、何度もエリアに入らないよう注意を行っていた。

2 関係職員への聞き取りの結果について

11月20日のコ克蘭の移植作業に立ち会った職員5名（地方創生推進室1名、管財課1名、森林づくり推進課1名、環境緑水課2名）から、12月17日、18日の2日間で聞き取りを行った結果は、次のとおりです。（別紙「聞き取り結果」参照）

- ・ 「コ克蘭生息エリアは、誰が見ても判別しやすいようにしてあったのか」については、コ克蘭生息エリアはピンク色のビニールテープで囲まれ、個体位置にさらにピンク色のビニールテープで目印がつけられていた、との回答がありました。
- ・ 「コ克蘭生息エリアに侵入しないように注意したのは誰か」については、作業開始前に木下氏が全員に言っていたほかに、木下氏と監督員が随時、侵入者に立ち入らないように注意していた、との回答がありました。
- ・ 「コ克蘭生息エリアに侵入した人は誰か」については、写真撮影をしていた考える会の2人（赤いズボンの人：考える会B、頭にバンダナを巻いた人：考える会C）と考える会Aのほか、考える会の3人（考える会A、赤いズボンの人：考える会B、頭にバンダナの人：考える会C）、考える会のカメラを持った2人（考える会B、考える会C）、との回答がありました。
- ・ 「コ克蘭を踏んでいるというやりとりを見聞きしたか」については、監督員が考える会の人に踏んでいると注意した、と5人の職員が回答しました。また、踏んだ人は、考える会Aのほか、考える会の人、との回答がありました。なお、やりとりのなかで、監督員が考える会の人に対して「足が踏んでますよ」と棒で指し示し、指摘された人はエリア内で一步下がった、との回答のほか、考える会Aが「ちゃんと踏んでいないから大丈夫」と言って後退した、考える会Aがあつと声を上げその場を移動し少し離れた場所に立つようになった、との回答がありました。

これらの聞き取りの内容は、報告書の記載内容のとおりであることを確認しました。

3 一般質問における産業環境部長の答弁について

産業環境部長の答弁は、「コクランを保護するために張ったひもの中に移植作業員の制止も聞かずに入り込み、コクランを踏みつけてしまうという、耳を疑うような報告が現場の職員からありました。」という内容でありました。

これは、報告書の記載内容に基づいたものであり、事実誤認はないことを確認しました。

聞き取り結果

	コ克蘭生息エリアは、誰が見ても判別しやすいようにしてあったのか。	「コ克蘭生息エリアに侵入しないように」と注意したのは誰か。また、注意はいつの段階でしたのか。	移植作業を行う作業員と監督員以外で、コ克蘭生息エリアに侵入した人は誰か。	「コ克蘭を踏んでいる」というやりとりを見聞きしたか。	踏んでいると指摘したのは誰か。踏んでいると指摘されたのは誰か。	踏んでいると指摘された人の行動は。
A	生息エリアは、ピンク色のビニールテープで囲まれ、コ克蘭の個体位置にさらにピンクのビニールテープで目印がつけられていた。	聞いていない。	考える会の人コ克蘭の近くで見ていた記憶がある。	考える会の人作業員に移植のやり方を注意している最中に、監督員が考える会の人に「踏んでいるよ」と注意した際に、考える会の人バツと足を離れたところを見た。	指摘したのは監督員で、踏んでいると言われたのは白髪で眼鏡をかけた考える会A。	あっと声を上げ、その場を移動し、少し離れた場所に立つようになった。
B	生息エリアは、ピンク色のテープで囲われていた。	木下氏が、作業開始前のほか作業中も数回、エリア内は入らないように考える会を含め全員に言っていた。	確認できなかった。	監督員が考える会の人に対して、踏んでいると注意したのを聞いた。	指摘したのは監督員で、指摘されたのは考える会の人。	特にもめていない様子であった。
C	ピンク色ビニールひもで群生地を地面に沿うように囲ってあった。さらにコ克蘭の個体箇所ごとにピンク色ビニールひもで目印をつけていた。また、目印をつけていない新しい個体もあった。	木下氏が作業開始前に全員に言っていた。作業中も随時、木下氏、監督員が侵入者に対し、立ち入らないよう注意していた。	写真撮影をしていた考える会の2人（赤いズボンの人：考える会B、頭にバンダナを巻いた人：考える会C）と考える会A。さらに入ったか定かではないが男性：考える会Dが近づいていた。	監督員が考える会Aに対して、「そこにいるのではコ克蘭を踏んでいる」と言った。考える会Aは「ちゃんと踏んでいないから大丈夫だ」と言って後退した。	指摘したのは監督員で、指摘されたのは考える会A。	考える会Aは「ちゃんと踏んでいないから大丈夫」と言って後退した。
D	生育エリアは、ピンクのビニールテープで囲まれていた。	木下氏が、作業開始前に全員に説明していた。	考える会の3人（考える会A、赤いズボンの人：考える会B、頭にバンダナの人：考える会C）。	監督員が考える会の人「踏んでいるよ」と注意した。	指摘したのは監督員。踏んでいると指摘されたのは考える会A。	バツと足元を見て、立ち位置をずらした。
E	18株の群生地をピンク色ビニールひもで囲っていた。	木下氏が、作業開始前に言っていた。また、木下氏と監督員が、数回、エリア内に侵入した人に対して注意していた。	考える会のカメラを持った2人（考える会B、考える会C）。	監督員が考える会の人に対して「足が踏んでいますよ」と棒で指し示した。	指摘したのは監督員で、指摘されたのは考える会の人。	エリア内で一歩下がった。

阿須山中土地有効活用事業におけるコクランを中心とした植物貴重種の移植について（報告）

期 日 令和2年11月20日（金）

参加者 埼玉県みどり自然課（2名）、埼玉県環境科学国際センター（1名）

飯能市地方創生推進室（1名）、管財課（1名）、森林づくり推進課（1名）、環境緑水課（2名）

飯能ISA（1名）、大和リース（1名）、造園業者（3名）

はんのう市民環境会議（1名）、加治丘陵の自然を考える会・飯能（7名）

時 間	作業内容	備 考（参加者の主な言動）
8:55	県、市、飯能ISA、造園業者、市民環境会議が集合し、朝礼を行う。	・ 集合場所（ドッグラン周辺）に考える会の姿はなかった。
9:00	考える会とハイキングコース入口付近で合流する。	・ 「何の説明もないのに始めるのか。」など考える会の方々からのご意見 →考える会の方を交え、再度、朝礼を実施する。
9:02	再度、朝礼を行う。	・ 〇〇氏（飯能ISA）から参加者の紹介とスケジュール概要を説明 ・ 〇〇氏（考える会）が説明を遮るように以下のような主張 「何の説明もない。」 「いつ市民への説明会をするのか答えろ。」 「メガソーラーありきの事業のどこが地方創生だ。」 「市民への理解を得ていないのに事業を進めるな。」 「こんな事業が無ければコクランなんて移植しなくていい。」 ・ 考える会メンバー 「この時期に移植は適切か。」 「コクランだけ引っこ抜くのか、周辺の土は移動しないのか。」 「こんな事業が成り立っていいのか。」 「県はどう考えているのか。」 ・ 考える会と事業者、県、市のやり取り → 〇〇氏（飯能ISA） 「自治会への説明などを行ってきた。コクラン移植や開発について法律違反をしていない。」 → 県みどり自然課 「移植時期はギリギリ大丈夫な時期と判断している。」 「今日はコクランの移植の日であり、事業の是非や説明云々を問う日ではない。コクランを守るために調整した日である。」 → 考える会メンバー 「県もこの事業を無理矢理推し進めている。」など発言 → 市 「県の言うとおりに、今日は事業の説明会云々ではなく、コクラン移植のため事前説明や日程調整を行って決定した日である。」 「事前に説明を行って、今日来ているということは、今日がコクラン移植の日であることを皆さん理解しているのではないか。」 「説明会や事業内容への意見など今ここで言われても、結論も出ない、回答することはない。」 → 考える会メンバー 「公務員として今後働くのであれば、この事業がおかしいと思わないのか。将来に影響するぞ。異常だ。」

時 間	作業内容	備 考
		→市 「事業の良し悪しについてなど、議会の審議を経て進んでいる事業である。事業に関して個人的意見を言う場ではない。また、一担当者が議会を経ていることと逆行する方が、公務員としてあってはならないと考える。」 「市民の代表が集まる市議会で、白紙撤回は認められなかった事業であるし、説明会についてもそういった場で審議されるべきではないか。」 「今日は、事前に調整や説明をしてきたコクランを移植する日である。」 →■■■■氏（考える会） 「コクラン移植についても説明を電話で済ませるなど、これまでの市の姿勢では、信用できない。」 →市 「これまでコクラン移植についての連絡は担当から何度も電話を入れ、説明に関する日程調整を行ってきたが、考える会から返事がなかった。」 「市としては、誠意ある対応をしてきたが、そのことに応じてこなかった考える会の対応も事実である。」 →■■■■氏（考える会） 「とにかく説明をしろ、事業者でも、市でも、県でも、大和リースでもいい。説明もできないような事業をするな。」 →市 「冒頭からお伝えしているとおり、今日は、説明会や事業内容を討論する場ではない。コクラン移植の日である。」 →■■■■氏（考える会） 「そんな事分かっている。とにかく説明会をしろ。」 →市 「ご理解しているのであれば、早速コクラン移植作業を始める。」 →考える会メンバー 「写真をHPなどに掲載してはダメなのか。」 →市 「希少種保護の観点から場所を特定するような写真の掲載はご遠慮ください。」
9:18	移植するコクランの生育場所へ移動開始	
9:55	コクラン採取作業開始 (コクラン採取作業中)	・■■■■氏（考える会）は作業を見るわけでもなく「大和リースはダメだ、いい加減なことをしている。市は地方創生というなら堂々と説明会をすればいい。」などのご意見 ※その後、作業終盤の15分程度のみ作業を見る。 ・考える会メンバーがコクランを踏みつけていたことについてのやりとり →コクラン生息しているエリアに目印を付け、作業員以外は入らないよう、指導をしているにも関わらず、考える会の方が2~3名エリア内に入って作業を見学 →その際に考える会メンバーがコクランが生息している箇所に足を置いていたため、作業員が注意 →「ちゃんとは踏んでいない。」と言うが、何度もエリアに入らないよう注意を行っていた。 ※作業中には、伐採しているエリアを見ながら「いい加減な伐採方法だ。」「大和リースが隠れて悪くみをしている。」などとコクラン移植とは関係のない事業に対する非難を行っていた。

時 間	作業内容	備 考
11:50	コ克蘭の採取を終了し、移植地②へ移動開始	・移動時に一列になって事業地内を歩いていたが、途中から■■■■氏（考える会）などがはぐれ、考える会メンバーは2人のみとなった。
12:11	移植地②の周辺へ到着 リスク分散を図るため、各移植地へ運ぶコ克蘭の仕分けが行われた。 ・ビニール袋32袋分のコ克蘭を採取 ・移植地②、③へ移植するコ克蘭を県の助言を仰ぎながら事業者において仕分けが行われた。 ※大小の2グループにに分け、各グループの2/3を移植地②へ、1/3を移植地③へ移植することとなる。	・この時点でも考える会メンバーははぐれたまま
12:30	（コ克蘭仕分け作業終了）	・■■■■氏（市民環境会議）が所用により帰られた。
12:45	移植地②においてコ克蘭の移植開始 ・移植現場においてもリスクを分散するため、県の助言を仰ぎながら、4箇所に分けて移植作業が行われた。 ・移植した株数は23株（1箇所目：4株、2箇所目：4株、3箇所目：9株、4箇所目：6株） ※株数は県へ確認済	
13:06	（コ克蘭移植作業中）	・はぐれていた考える会メンバーが合流 ・■■■■氏（考える会）が移植に対してご意見 →「移植したコ克蘭のサイズを測れ。」 →「事業者が移植の報告をするのが当然。」 →「わざわざついてきてやってるんだからそれくらいやれよ。」 ※現場で市は県に確認「報告書の提出だけ求めている。説明会やサイズの詳細までは求めるものではない。」と確認している。
13:35	移植地②における移植作業終了	
13:47	移植地③においてコ克蘭の移植開始 ・移植現場においてもリスクを分散するため、県の助言を仰ぎながら、3箇所に分けて移植作業が行われた。 ・移植した株数は20株（1箇所目：6株、2箇所目：10株、3箇所目：4株） ※株数は県へ確認済	

時 間	作業内容	備 考
14:13	移植地③における移植作業終了 (一旦、集合場所へ戻る)	11月17日に実施した事前説明会において、別の場所で発見したコクランを考える会メンバーが案内していただけたとのことであったため、その方に確認したところ、残置森林に生育しているとのことであり、確認不要となった。 →県条例指定種であるコクランに関する対応が全て終了したため、県職員の立ち合いは終了となる。
14:45	コクラン以外で移植する植物貴重種の生育場所へ移動開始	その後、ササバギンランとハクウンランの移植作業に移ろうとした際の考える会からの発言 →「その作業について話を聞いていない。」 →「資料などは、いつ配られたのか。」 →「休憩もなしに作業を続けて人権侵害だ。」 ※上記のような主張を環境緑水課の職員に一方的に伝え、考える会メンバー（全員）は同行されなかった。
15:00	コクラン以外で移植する植物貴重種の採取作業開始 ・移植した株数は6株（ハクウンラン：1株、ササバギンラン：5株） ※ハクウンラン（1株）、ササバギンラン（1株）は7月の調査でマーキングされていたが、地上部の生育が確認されなかった。地下部の根等が残っている可能性があることから周辺の土ごと採取し、移植することとした。 ※10月14日に■■■■氏（飯能ISA）、環境管理センター、造園業者において、移植に係る事前調査を行い、ササバギンラン（1株）が消失していることが確認された。主な理由として、盗掘または降雨による流失が考えられるとのことであった。	
15:45	コクラン以外の植物貴重種の採取を終了し、移植地③へ移動開始	
16:25	移植地③においてコクラン以外の植物貴重種の移植開始	
16:45	移植地③における移植作業終了 (その後、解散)	

2020 年 12 月 18 日

飯能市長 大久保 勝 様

大津 力議員の質問に対する市の答弁に抗議する

先日 12 月 15 日（火）大津議員の質問に対する青田精一産業環境部長の答弁の中で、『会のメンバーが制止を振り切って入り、コクランを踏みつけた。』との答弁がありましたが、そのような事実は一切ありません。

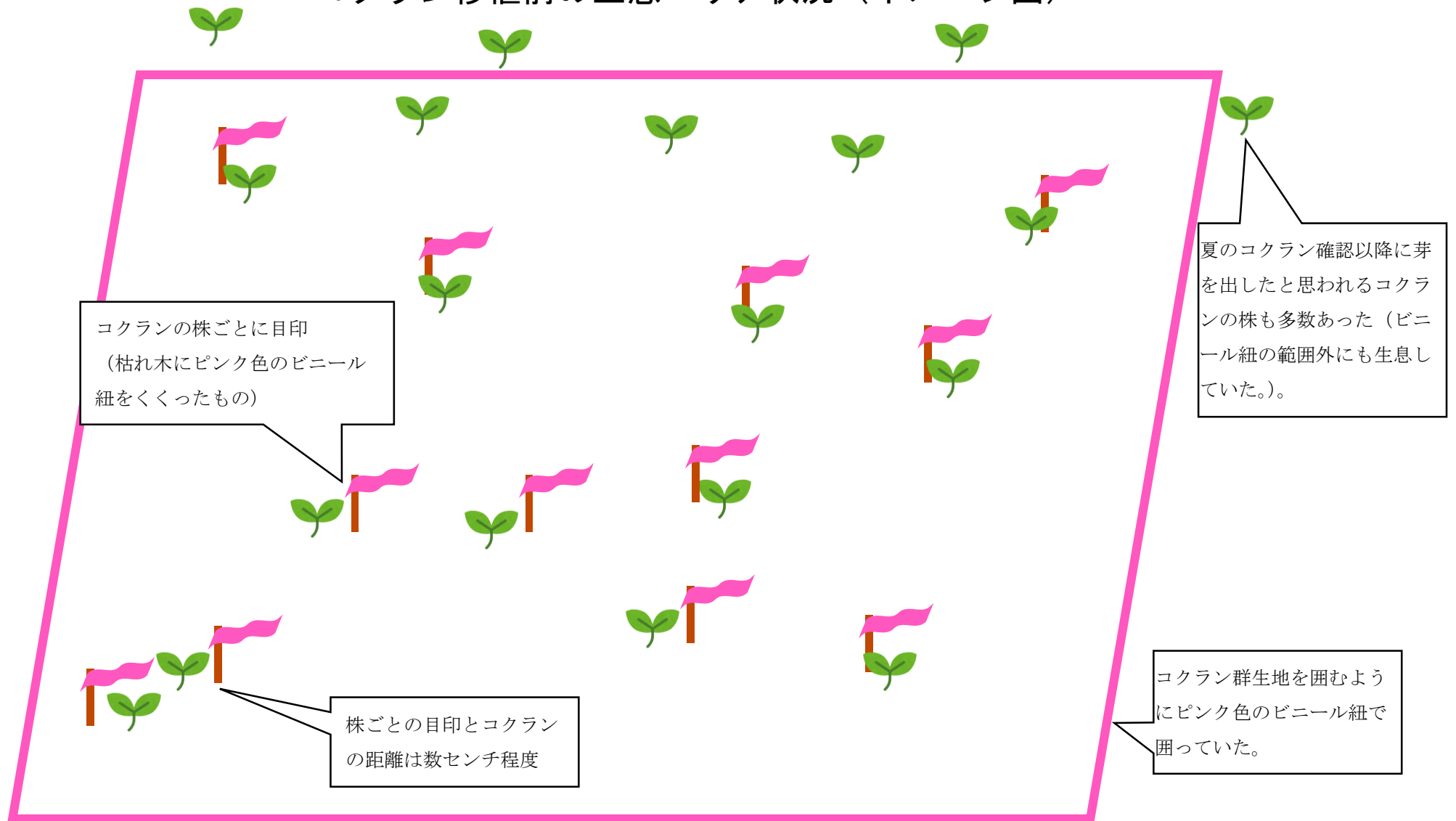
よって、当会への名誉を著しく棄損するものであり、答弁の根拠となった報告書の速やかな開示を求めます。

加治丘陵の自然を考える会・飯能

飯能市

長谷川 順子

コ克蘭移植前の生息エリア状況（イメージ図）





写真①



コクラン

写真②



作業員1

作業員2

監督員

写真③



写真④